



履修科目

Plant Nutrition (3 単位)

Plant Biotechnology (2 単位)

Pesticides and Application Technique (3 単位)

Soil and Water Conservation (3 単位)

Integrated Pests and Disease Management (2 単位)

Rubber Plant Production (2 単位)

Practicum of Rubber Plant Production (2 単位)

授業から学び得た専門的な内容について

Plant Nutrition と Plant Biotechnology は過去に茨城大学で似た題目の講義および実験を履修した経験があり、いずれもその時に学んだ内容と概ね同じ内容であった。前者は化学物質が栄養源としてどのように植物体に影響を及ぼすか、実験も並行しつつ各種化学物質の反や生理作用を学んだ。後者は主に品種改良を主とした遺伝子組み換え技術について、その手法や実例をふまえて議論やプレゼンテーションを交わした。一方、その他の講義は現地特有の課題について扱うものが多い印象だった。農業病害 (Pest) について病原となる虫を防除するため、いかに化学薬品 (Pesticide) を使用せずに行うか議論したり、あるいは薬品を使用する場合はどうするべきかのノウハウを学んだりした。病害発生量に基づいた予察による薬剤使用量の計算から、実際の散布の体験を通じて作物害を減らす工夫を学んだ。また現地の伝統的なゴム植物については、その生理特性や管理方法、樹液採取まで一連の体系を学修した。大学内の圃場に出て実際に栽培されていたゴムの木に触れて、林規模での管理といった内容が中心であった。Soil and Water Conservation については天然資源である土壌の流出をいかに防ぐか、主な流出要因を水によるものととらえ、実験を交えつつ水が流出しやすい土地の特徴を学んだ。

自らの専門分野との直接的または間接的な関連性について

選択可能であった講義が少なかった事も原因の一つであったが、今回の留学では現地特有の講義を履修したいと思い、あえて関連が薄い科目を選択した。先述の通り Plant Nutrition および Biotechnology は過去の必修科目と内容が類似していた故に、新しいことを学んだ印象は少なかった。一方でその他の講義、特に病虫害に関するものは別の観点から作物を保護する手法を学び、実際の農業管理において一部応用が可能と思われる技術を知ることが出来た。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点

わからないと感じたときは、まず英語の意味や文章が解らないからなのか、あるいは高度で専門的な内容だからなのかを分析した。英語が解らないときは辞書を用いたり英語がよくできる友人に相談し、内容が解らないときは先生に質問したりインターネットで検索したりした。また、講義中にスライドが用いられたときは、パワーポイントファイルを毎回もらうようにして、復習に努めた。時には同じ留学生仲間のノートを借りて、書き漏らした先生の話なども記録するようにした。



履修科目

Plant Nutrition (3 単位)

Plant Biotechnology (2 単位)

Pesticides and Application Technique (3 単位)

Soil and Water Conservation (3 単位)

Integrated Pests and Disease Management (2 単位)

Rubber Plant Production (2 単位)

Practicum of Rubber Plant Production (2 単位)

授業から学び得た専門的な内容について

Rubber の講義は新鮮で、日本では受けることができない内容であったと思う。“Tapping”の時間帯や意義、Rubber Plant の重要病害虫や栽培体系、気候、土壌などについて学ぶことができました。

自らの専門分野との直接的または間接的な関連性について

自分の専門は植物生産だが、講義では土壌や保全などについて学習できた。実際、作物生産を考えていく上で重要であると再認識した。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点

英語での講義だったので、講義中は聞き取れたことをメモし、ネットや教科書を活用しながら復習した。マレーシアからの AIMS 学生にも助けてもらいながら、英語力と専門性を高めていった。